

おだわら市民交流センターUMECO指摘事項に係る対応状況（令和7年度中間）

No	指摘年度	コンセプト機能	指摘内容	予定している対応 予算措置など	実際に行った対応 今後の方針など	対応年度
1	R 6	— 拠点	UMECO企画展やアクティブサロン等について、今後も利用したことのない団体の参画を促進すべき。	団体への呼びかけを実施する。	参加実績のない団体を中心に、チラシや直接声掛けによる紹介を行った。	R 7
2	R 6	— 拠点	アンケート手法を見直しつつ団体の意見を把握し、UMECO独自の企画（地域や事業者との協働、市民活動促進に向けた啓発展示の実施など）やホワイエの有効活用方法を検討すべき。	団体の意見集約を進める。	ホワイエの活用については展示だけでなく、他の活用法も検討していく。UMECO独自の企画については今後も継続して検討していく。	R 8
3	R 6	— 拠点	一団体の展示に留まらず、関連するキーワードをテーマに複数団体の活動紹介をする形式について検討すべき。	年間の予定が確定しているため、来年度以降、複数団体が同時参加できるような開催方法を検討する。	UMECOで展示の企画を立案する。	R 8
4	R 6	— 相談支援	相談件数が減少した理由を検証すべき。	相談件数の減少はスタッフの認識に不足する点があったもので、窓口で立ち話で対応をしたものも含め、ファイルへの記入の徹底を指導する。	スタッフ全員が揃う定例会での指導を行う。UMECOで市民活動に係る各種相談を受け付けていることについて広報を強化する。	R 7
5	R 6	— 相談支援	専門的な相談（団体運営に関する相談や、法人設立相談など）への対応や、より効果的な相談機能の周知を行っていくべき。また、「UMECOに行けば解決する」との認識につながるようにスタッフ全体のスキルアップの取組の継続に努めるべき。	スタッフ各自のスキルアップのため外部の研修等を活用する。	スタッフ個々の能力・経験の差異も大きいので、それぞれに合った研修を行う。	R 7 R 8
6	R 6	実現 相談支援	各主体のニーズを把握、適切にアドバイスできるスタッフを配置など、市民が必要な支援をいつでも受けられる体制を構築すべき。	スタッフ各自のスキルアップのため外部の研修等を活用する。	UMECOでの相談受付の認知度の向上のための施策を検討する。	R 7 R 8

No	指摘年度	コンセプト機能	指摘内容	予定している対応 予算措置など	実際に行った対応 今後の方針など	対応年度
7	R 6	一 協働 支援	UMECOがより多くの諸団体（自治会や地域活動団体、企業など）との協働のつなぎ役になるよう、ニーズの把握と積極的なマッチングを展開すべき。	地域の活動団体へのUMECOの認知・登録団体の紹介を進める。	情報誌「Hello! UMECO」を活用し、地域の認知度を高める。	R 7 R 8
8	R 6	行動 協働 支援	新規団体と既存団体の交流を企画・支援し、市民活動の活性化に努めるべき。特に交流事業では一過性で終わらず、連携を促し活動の幅を広げる後押しをすべき。	団体交流会での支援を行う。 若者を上手く活動に組み入れている団体との意見交換による継続性の習得を行う。	団体交流会開催の計画立案をする。	R 7
9	R 6	行動 協働 支援	協働促進のために、パートナーシップミーティングで実際につながった事例について、ホームページ上で公開すべき。	県が事例集をホームページで公開しているため、その事例集へのリンクをUMECOのホームページに掲載することについて県と調整する。現状は事例集を配架している。	来年度以降の県との共催について県との調整を行う。（原則連続3年の基本であるが）	R 7

No	指摘年度	コンセプト機能	指摘内容	予定している対応 予算措置など	実際に行った対応 今後の方針など	対応年度
10	R 6	— 学習 体験	若者向けの学習機会は継続し、団体向け講座についてはニーズを把握し、団体活動に役立つ専門的な内容の実施を検討すべき。	学生に限らず若者のニーズの変化に対応できる事業内容を検討する。	若者を取り込める事業を開催する。	R 7
11	R 6	— 交流 コーディネ ット	事業実施に際しては、活動分野を超えた交流機会の創出や未参加団体のニーズ把握を検討し、団体間の協働につながる積極的なコーディネートを行うべき。	事業の枠を超えての交流会等の企画を策定する。	若者を取り込みを目論む交流会を開催する。	R 7
12	R 6	実現 交流 コーディネ ット	パートナーシップミーティングについては、県の補助終了後も企業とのつながりを築ける同様の事業を実施すべき。また、生まれたつながりを確実に発展させるためのコーディネートに努めるべき。	今年度までの3年間は、県西地区協働での開催であり、南足柄市、開成町（令和5年のみ）、大井町の他、今年度は箱根町の参加を得た。 これまでは県から補助金があったが、共催でなくなると補助金がなくなるため、事業費全体の予算への対応が必要となる。	パートナーシップミーティングは、来年度以降も開催を考え、企業や学校・地域等と団体との交流を進めていく。3年間は協働事業であったので県より補助金が提供されていたが、今後は年度のUMECO事業予算からの対応となる。	R 7以降
13	R 6	行動 交流 コーディネ ット	UMECO祭りの成果検証アンケートは、開催目的を踏まえ、団体関係者と一般参加者で内容を分け、特に関係者からは回収率100%を目指すべき。	アンケートについて参加団体の提出方法（WEB回答等）及び来場者の提出依頼方法を検討する。また、回答しやすいアンケート内容を検討する。	今年度のUMECO祭りに向け具体案を検討する。	R 7

No	指摘年度	コンセプト機能	指摘内容	予定している対応 予算措置など	実際に行った対応 今後の方針など	対応年度
14	R 6	— 情報	更新後のホームページについては、積極的に周知し、より活用されるよう、内容や見せ方の継続的な改善（市民活動の意義における説明や、各種事業の報告、より伝わるための文章作成など）の検討を行うべき。	新しいホームページの紹介及び各種事業への申込み方法等の説明を行う。 団体記事投稿の紹介記事の拡充を図った。	団体向け講座で周知を試みたが、参加者が少なかった。定常的に団体記事投稿や届出、イベントへの参加申込方法等の紹介を進めた。 ホームページ閲覧状況の把握や意見聴取を行い、改善に努める。	調査 R 7 中
15	R 6	きっかけ 情報	各種事業におけるアンケートにおいては、その内容を今以上に精査し、回収率向上への検討（ホームページやスマートフォンでの回答を可能にするなど）をすべき。	ホームページやスマートフォンでの回答を可能にする。 アンケート記入・提出のし易さ、回収方法を検討する。	都度アンケート記入をお願いする。	R 7
16	R 6	きっかけ 情報	市民活動のきっかけ作りとして、入門講座の定期開催や活動の見学機会を提供し、既存事業の様子をSNSで動画公開するなど、広範囲に情報を拡散できる発信方法を検討すべき。	入門講座開催は現状通り進めていく。 事業の状況公開等は、ソフト・ハード面を含め課題が多いため、実現のため検討を行う。	動画公開等の実施可否の検討を行う。	R 8
17	R 6	— 男女	UMECOが主体となつての事業展開を検討すべき。また、ホームページやSNSでPRするとともに、啓発動画の作成・配信に努めるべき。	今年度のUMECO主体事業について予定通り開催する。	現在の社会状況を踏まえ、今後の事業を考案していく。 専門性のあるスタッフを配置する。	R 8
18	R 6	— 国際交流	UMECO主催の定期的な事業を検討しつつ、外国籍市民の課題解決には行政や市民活動団体との連携を図りながら事業を展開すべき。	今年度は2回目となる地球フェスタの協働開催であるので、団体・外国籍の方のニーズを把握する。	外国籍の方の集客方法を検討する。	R 8